

(5) 会議の工夫・実践例（県外市町村に学ぶ）

🔍 岡山県津山市 ～愛のある地域ケア個別会議～ 最大のアウトカムは当事者の笑顔が増え、健康になれたか

住民の力を信じ、住民同士で元気になれる地域づくりに取り組んでいる岡山県津山市。津山市の地域ケア会議では次の点を大切にしています。

● 対象者の望む生き方の実現をみんなで話し合える

- 津山市では、「どうすれば利用者の生活の質が向上するのか、その人らしい生活や人生と言えるのか」を自立支援の信念とし、地域ケア会議を、本人の「したい」を守り、実現する手段を話し合う場としています。
- ケアプランの1日（1年）の目標とする生活は、支援者でなく本人が決めるもの。本人を知り、ともに考えることがケアマネジメントの手法であり、ケアマネジャーは、本人がしたいことを7つのポイント^(※)に基づき聞いています。

(※) 「したいこと」とは

- | | |
|---------------------|---------------|
| ①よくしていることの中で一番大事なもの | ②充実感や幸福感に包まれる |
| ③人や場所、時間と繋がっている | ④生活習慣になっている |
| ⑤自分らしいと感じられる | ⑥健康になる |
| ⑦社会や家族などに貢献・役割を果たす | |

● 具体的・現実的・実現可能な助言で検討できる

- 津山市では、地域ケア会議の助言者に対し、本人の望む生き方を実現する方法として、理想論ではなく、具体的で実現可能な提案を行うよう伝えています。
- また、助言は、当事者の行動変容につながってはじめて良い助言と考えており、市が主催する助言者向けの研修では、これまでの助言をケアマネジャーが○△×で評価した結果を助言者に伝え、助言者同士で評価の理由を議論し、助言のレベルアップを図っています。

○：アドバイスを利用者に伝え、実行できた

△：アドバイスを利用者に伝えたが、実行できなかった

×：アドバイスを伝えられなかった、または伝えなかった

● 課題の中核を読み解くために、多角的視点を持っている

- 会議の参加者には、課題の中核を読み解く、多角的な視点を持つことが求められています。事例提供者には、自立を妨げている要因（体、心、関係性）とその解決策についての報告が求められ、コーディネーターはケースにより、①～⑧のどこにフォーカスを当てるべきかを考えながら進行します。

多様な支援方法とは？

- | | |
|---------------------|-------------------|
| ①からだところとお付き合い | ②人と環境としたいこと |
| ③リスク管理（水分・排泄・食事・運動） | ④マズローの階層欲求 |
| ⑤できそうをできる・しているに | ⑥フォーマル・インフォーマル |
| ⑦家族と地域の力の見積もり | ⑧事例提供者の課題、悩みに添えたか |

コラム

～「10年使える津山の自立支援の定義」～

- 津山市では、市内の主任ケアマネジャーが中心となり、介護サービス事業所や各職能団体等の意見も聞きながら、半年かけて「10年使える津山の自立支援の定義」を作りました。
- 「利用者が自ら選択できる」「意味のある目標の達成」、「健康」、「笑顔」など、他にも多くのキーワードが入った定義ですが、津山市では、支援者が自分たちで作るプロセスこそに意味があったと考えています。
- また、地域ケア会議の参加者が自立支援の定義について共通認識を持つことで、会議で議論がブレることが少なくなったそうです。
- 津山市の自立支援の定義は、住民の意識が「要介護状態にならないこと」ではなく、「健康になること」に向くように作られており、住民の意識が健康に向くと、住民は地域ケア会議や介護予防事業を「自己実現を支える手段」として捉えてくれると考えています。

【岡山県津山市自立支援型地域ケア会議 基本情報】

- 開始：平成27年度～
- 主催：市
- 頻度：週1回（1事例40分程度）
- 対象者：要支援新規認定者
※サービス担当者会議の前に位置付け
- コーディネーター：高齢介護課・健康増進課の作業療法士・保健師、包括センター長
- 専門職助言者：医師、薬剤師、リハ職、管理栄養士、歯科衛生士、主任ケアマネジャー

岡山県津山市役所：安本 勝博氏 講演より

🔍 愛知県豊明市 ～ふつうに暮らせるまちづくり～ 地域ケア会議は専門職が知恵を持ち寄るお互いの学びの場

様々な地域資源を網羅・活用し、サービスではなく、ふつうの暮らしを通じて元気になれるまちづくりをすすめている豊明市。地域ケア会議では次の点を大切にしています。

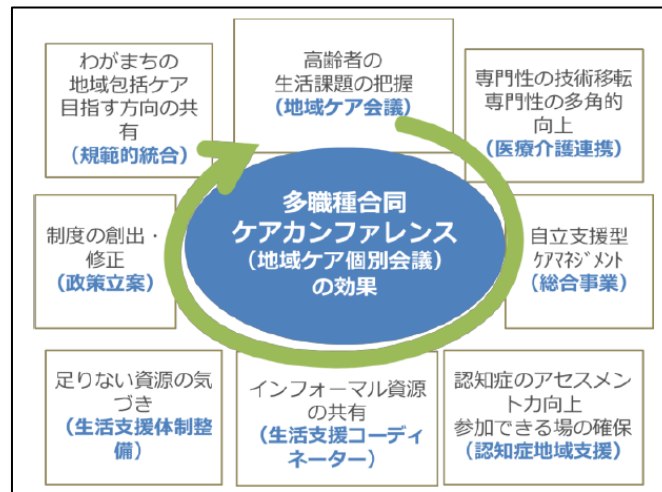
● ポイント 1：明確かつ簡潔な論点の設定

- 豊明市では、会議における議論のポイントを以下のように整理しています。
 - ◇ 本当の課題は何ですか？
 - 本人にとっての自立は？自立を阻害する要因は？
 - 現状とありたい姿とのギャップから課題を特定
 - ◇ 本当に解決できますか？
 - サービスは現状とありたい姿のギャップを本当に解決できるのかを意見交換
 - ふつうの暮らしを取り戻す（自立）支援のために、以下を行います。
 - ◇ 現状分析：なぜ今の状態になったのか？
 - ◇ 目標設定：どんな暮らしを目指すのか？
 - ◇ 「本当の課題」の抽出：取り組むべき課題は何か？
- 本人・家族が課題と向き合い、行動変容を起こすような議論を実施



● ポイント 2 : 他の事業との連動

- 多職種によるカンファレンスを行うことで、医療介護連携、総合事業、認知症地域支援、生活支援体制整備事業等の市町村が実施する事業がつながっています。



- 市が多くの民間事業者と協定を結び、協議・連携を行っています。高齢者の暮らしにくさを解決する生活支援や、健康長寿に寄与するサービスを数多く生み出し、まちの暮らしの中で、元気でいられる公的保険外サービスの創出を積極的に行っています。
- 多職種合同ケアカンファレンスで見えてきた課題から、以下の政策が生まれています。

| 見えてきた課題 | 解決に向けた政策へ |
|--|--|
| 利用者や家族が自立支援を理解してくれない | 連携強化 リハ職によるケアマネ同行訪問 (地域リハビリテーション活動支援事業) 他の職種が把握したい項目を網羅した共通アセスメントシート作成 |
| ケアマネのアセスメントの技量の差が大きい | |
| 訪問による栄養改善指導をしてほしい | 公的制度化 市町村特別給付の創設 送迎付き一般介護予防事業の創設 |
| 送迎つきで負荷が少ない運動の場が必要 | |
| 送迎つきで一人でも楽しめる外出先がないか自分で買い物したいが、行き帰りが辛い | 資源発掘 民間企業との連携 保険外サービスの創出・活用促進 健康麻雀、プレミアムサロン等 |
| 男性や知的な活動を好む方が参加したくなる通いの場がない | |

● ポイント3：調査・検討により、徹底した事業デザインの分析を行っている

- 地域ケア会議と合わせ、サービス利用者の実態を追跡調査し、悪化・改善を数的に把握し、効果的な総合事業の実施に反映しています。
- サービスから日常生活へと移行できるよう、短期集中的に利用するサービスCとその他の資源の役割を明確にして、役割をわかりやすくしています。



【愛知県豊明市地域ケア会議（多職種合同ケアカンファレンス） 基本情報】

- 目的：自立型ケアマネジメントの強化、多職種の視点によるケアの質の向上
- 主催：市（平成28年度～）
- 頻度：要支援者・事業対象者（月1回・1.5時間、4ケース）包括版 30名ほど
要介護者（月1回・1.5時間、ミニ講義+3ケース）居宅版 60名ほど
- コーディネーター：要支援—健康長寿課、要介護—主任ケアマネジャー・地域包括職員
- 参加者：地域包括支援センター、ケアマネジャー、介護サービス事業所等、医師、
薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、保健師、
看護師、歯科医、歯科衛生士、生活支援コーディネーター、司法書士、
社会福祉協議会、民間企業等

藤田医科大学：都築 晃氏 講演より

🔍 初めて地域ケア会議を担当します。何から始めたらよいでしょう？

会議の準備や会議中に大切なことは、第3章（P.17～）と第4章（P.27～）に記載しています。司会をするにあたっての準備は第3章、進行のポイント等については第4章をご覧ください。

🔍 会議は行っていますが、より効果的に実施するにはこの先どうしたらよいでしょう？

第5章（P.50～）に、会議のあとに取り組みたいことを記載しています。会議の時間以外に何を行えばよいか、実際の工夫や実践例を紹介しています。

🔍 地域課題の検討はどうしたらよいでしょう？

地域課題の検討は、地域ケア推進会議などで行われます。地域ケア推進会議も含めた地域ケア会議全体のデザインについて、第2章（P.12～）で紹介しています。また、地域課題解決に向けての取組例を P.63～64 で紹介しています。

🔍 他市町村のコーディネーターはどんな準備をしているのでしょうか？

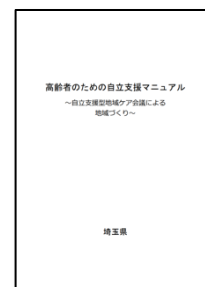
コーディネーターがどのような事前準備を行っているか、第3章（P.24～）で紹介しています。また、先輩コーディネーターからのメッセージも第4章（P.37）に掲載しています。

🔍 助言者に何を求めたらよいでしょう？

コーディネーターには、専門職助言者から適切な助言を引き出す役割もあります。各専門職の助言のポイント（P.39～）を理解しているとよいでしょう。また、助言者からの地域ケア会議に対する意見も P.47～48 で紹介しています。

(1) 高齢者のための自立支援マニュアル

- 自立支援型地域ケア会議を立ち上げる・運営するプロセスを学べます。
- 会議に使用する帳票類や、アセスメントや課題分析のプロセスなどについて記載しています。ケアマネジメントおよび自立支援にかかわる関係者が利用できる参考資料として作成しました。
- 資料は、以下のホームページからダウンロードできます。



<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0609/chiikihoukatukea/documents/jiritsushien-manual.pdf>

(2) 自立支援型ケアマネジメントのためのアセスメントマニュアル

- 居宅介護支援事業所、市町村、地域包括支援センター、職能団体（専門職等）が「自立支援」という介護保険の理念を共有した上で、自立支援に資するケアマネジメントの推進、ケアマネジメントプロセスにおける多職種との共同の推進、ひいてはケアマネジメントの質の向上を図ることを目的に作成しました。
- 資料は以下のホームページからダウンロードできます。



<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0609/chiikihoukatukea/documents/assessment.pdf>

(3) ご近所型介護予防実践マニュアル

- 身近なところに体操できる場があると、始めやすく、続けやすく、また、ご近所の方とのつながりもできて、一石三鳥です。自助・互助を育む取組として、おもいを使った体操の場を自分たちで立ち上げる方法や、運営のコツなどについてボランティア・参加者むけに2種類のマニュアルを作成しました。
- 資料（ボランティア用）は、以下のホームページからダウンロードできます。



<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0609/chiikihoukatukea/documents/volunteer.pdf>

(4) ご近所型介護予防 プログラム集

- 通いの場で楽しめる、介護予防に効果的なプログラムをまとめた冊子です。介護予防を長く楽しく続ける継続支援として、簡単に取り入れられる新しいプログラムを紹介しています。
- 「転倒予防・生活動作改善に関するプログラム」、「認知症予防に関するプログラム」、「口腔ケア・誤嚥性肺炎予防に関するプログラム」、「食事・栄養に関するプログラム」、「茶話会（話し合い）」など、出前講座などに活用できるよう作成しました。
- 資料は以下のホームページからダウンロードできます。



<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0609/chiikihoukatukea/documents/yobouprogram.pdf>

(5) イキイキ生活のつづけかた

- 20 項目の健康チェックにより、住民同士で自分や周りの人の健康について考えるきっかけづくりに活用できるよう、リーフレットと、解説本の 2 種類を作成しました。
- イキイキとした生活を、「食生活、健康と運動、こころ、脳の働き、お付き合い」の 5 つの柱で考え、その意味と自分と周りの人を元気にできるヒントを解説しています。
- 要介護状態になる要因に早期に気づき、対処できることを目指しています。
- 資料は以下のホームページからダウンロードできます。



【リーフレット】



【解説本】

https://www.pref.saitama.lg.jp/a0609/chiikihoukatukea/chiiki_care.html



(6) アニメ・マンガ

- 住み慣れた場所で自分らしく暮らし続けられる地域をつくるためには、住民の理解も重要です。わかりやすいアニメやマンガの形で理解を深めたり、住民同士や家族で話し合う題材になるよう作成しました。
- アニメ：地域包括ケアシステム、介護予防、生活支援、地域ケア会議の 4 本（各 20 分程度）
- マンガ：社会参加、介護者への支援、認知症の理解など、全 11 編。
- (5) と同じホームページからダウンロードできます。



【アニメ】



【マンガ】

企画・発行 埼玉県

〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-15-1
埼玉県福祉部 地域包括ケア課 地域包括ケア担当
電話 048-830-3256

制作 一般社団法人埼玉県リハビリテーション専門職協会
〒362-0074 埼玉県上尾市春日 1-26-7

《令和2年3月発行》



埼玉県のマスコット「コバトン&さいたまっち」